

フレンズ 帰国生 母の会 35周年記念講演会

外国語！
どう向き合う？ どう学ぶ？

バイリンガル教育の専門家が説く

＜母語の重要性＞

中島 和子

2018.08.07

東京海上日動ビル新館 15 階会議室

© k.nakajima 2018

日本が必要とする「グローバル人材」とは？

「グローバル人材育成推進会議中間報告」(2011年6月, p. 20)

- 「世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性, 異なる言語, 文化, 価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性, 新しい価値を創造する能力, 次世代までも視野に入れた社会貢献の意識などを持った人間」
 - 要素 I: **語学力・コミュニケーション能力**
 - 要素 II: 主体性・積極性, チャレンジ精神, 協調性・柔軟性, 責任感・使命感
 - 要素 III: 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ

★**バイリンガル・マルチリンガルを育成する**取組みが必要

グローバル人材育成に向けての日本の挑戦


- 海外の在外教育機関の場合
 - 「帰国準備教育」+「グローバル人材育成」教育へ
 - 「家庭+地域+現地校+補習校」(「補習校モデル」?)で複数言語リテラシーを育てる
 - 「補習校モデル」は50年以上実践されてきたこと
- 国内の日本人児童生徒の場合
 - 「外国語教育」の強化, 留学制度の充実
- 国内の外国人児童生徒の場合
 - 「第二言語としての日本語教育」(義務教育中心)
 - 幼児期・高校生への対応はこれから
 - 「母語/第一言語/継承語」の保持伸長教育はこれから

海外で育つ子どもこそ貴重な日本の戦力?

日本語教育推進基本法案

全体を含めた言語政策が必要

国を越えて育つことは、 子どもにどんな影響を与えるか

- 優れた即戦力が身に付く
 - 観察力, ソーシャルスキル, 異文化適応力, 複数の言語能力
 - 根なし草
 - ルーツがはっきりしなくなって、アイデンティティが揺れる
 - ジグザグの成長過程
 - 反抗期が遅れるなど, 成長がアンバランスになる
 - 人間関係
 - 友達との別れを何度も経験するため, 人間関係に自信を失う
- 
- バイリンガル・マルチリンガル人材は**痛い経験**を通して育つもの
 - **母文化・母言語を守りながら**, 第2/3文化・言語を身につける

複数の言語能力を持つことは、プラスかマイナスか？ —これまでの2言語教育の成果から

- 1960年代までは精神錯乱, 学業不振, 2重人格など, マイナスの評価であったが, 1970年以降はプラス
- どんなプラス面があるか？
 - 思考の柔軟性
 - ことばというものをより深く理解し, 分析力に優れる
 - 新しい言語の学び上手になる
 - ことばで人を判断したり, 差別したりしなくなる
 - 2つ比較することで, 3つ目の新しい発想が生まれる
- 母語/第一言語を継続して伸ばすことは, 第二言語の認知力, 思考力, 学力にプラスになる
- 一時的に両言語とも年齢相応のレベルに達しない「リミテッド状況」に陥る危険性がある

親の疑問—赴任前・帰国後

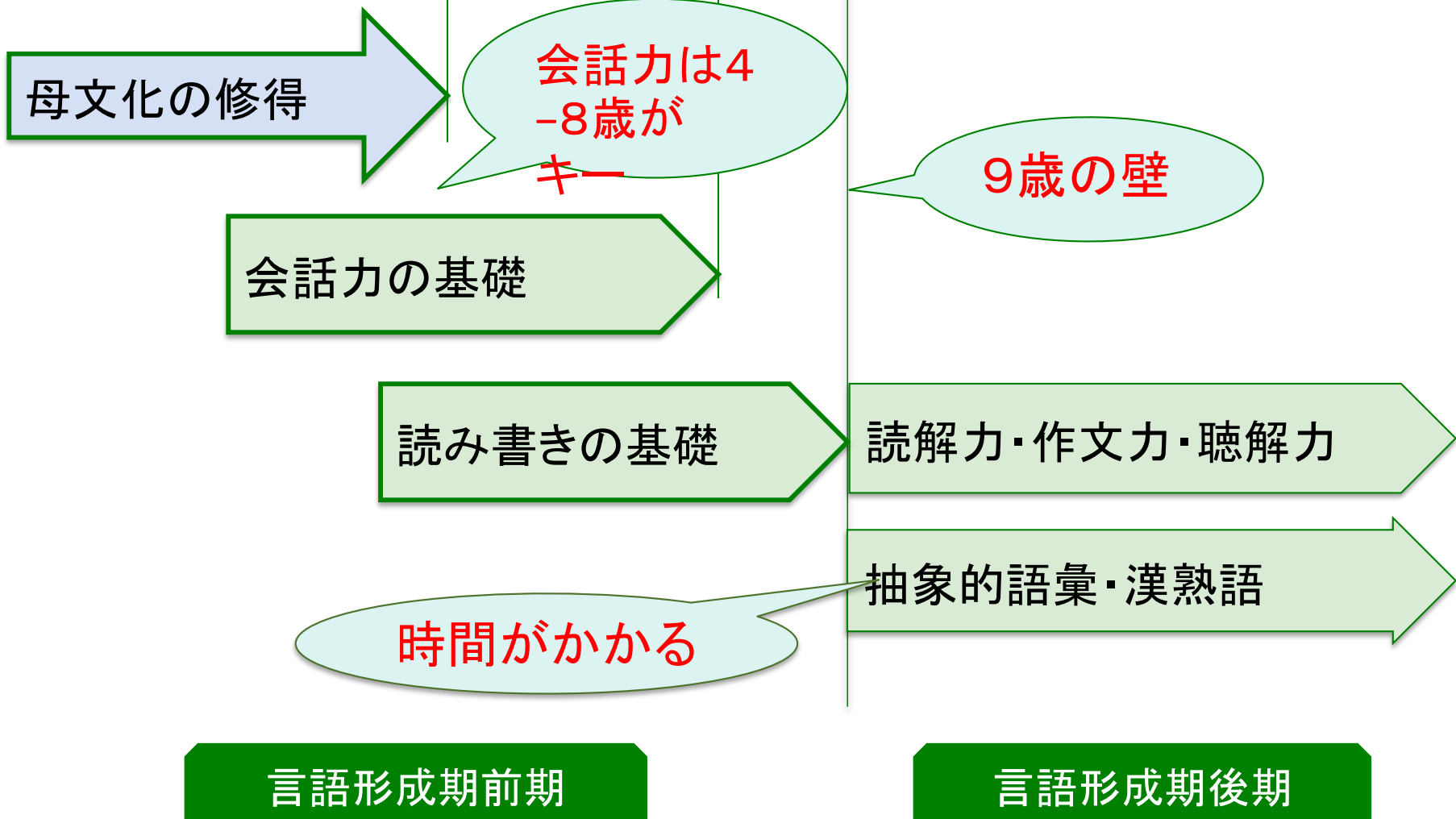
- 1) 海外で現地校に通わせながら、家でどうすれば日本語が保持できるか。(年齢は?)
- 2) アジアでインターに通わせると、3カ国語(日本語・英語・現地語)と付き合うことになるが、大丈夫だろうか。(年齢は?)
- 3) 3歳で英語圏から帰国、英語学習はしなかった。再度海外赴任でインターに通うが、英語を続けるべきだったのだろうか。
- 4) 2-6歳は国の現地校。親子では日本語、双子の息子間は英語だった。帰国後小1から日本の小学校に通う。すでに英語では話せなくなったが、今後英語教育はどうすればいいだろうか。
- 5) 英国で生まれて中1で帰国。家で日本語を使い、学習に力を入れていたが、日本の学校が困難。いつ遅れが取り戻せるのだろうか。

今日取り上げるトピック

- 子どもの年齢とコトバの発達
 - 大事な幼児期と小学校低学年
 - 学習言語をどう伸ばすか
- 2つの言語の関係について
 - 継承語の場合—コトバの社会的格差
 - CUP説—学習言語の共有面
- 年齢相応の学習言語を高める英語保持の可能性
 - 補習校モデルについて

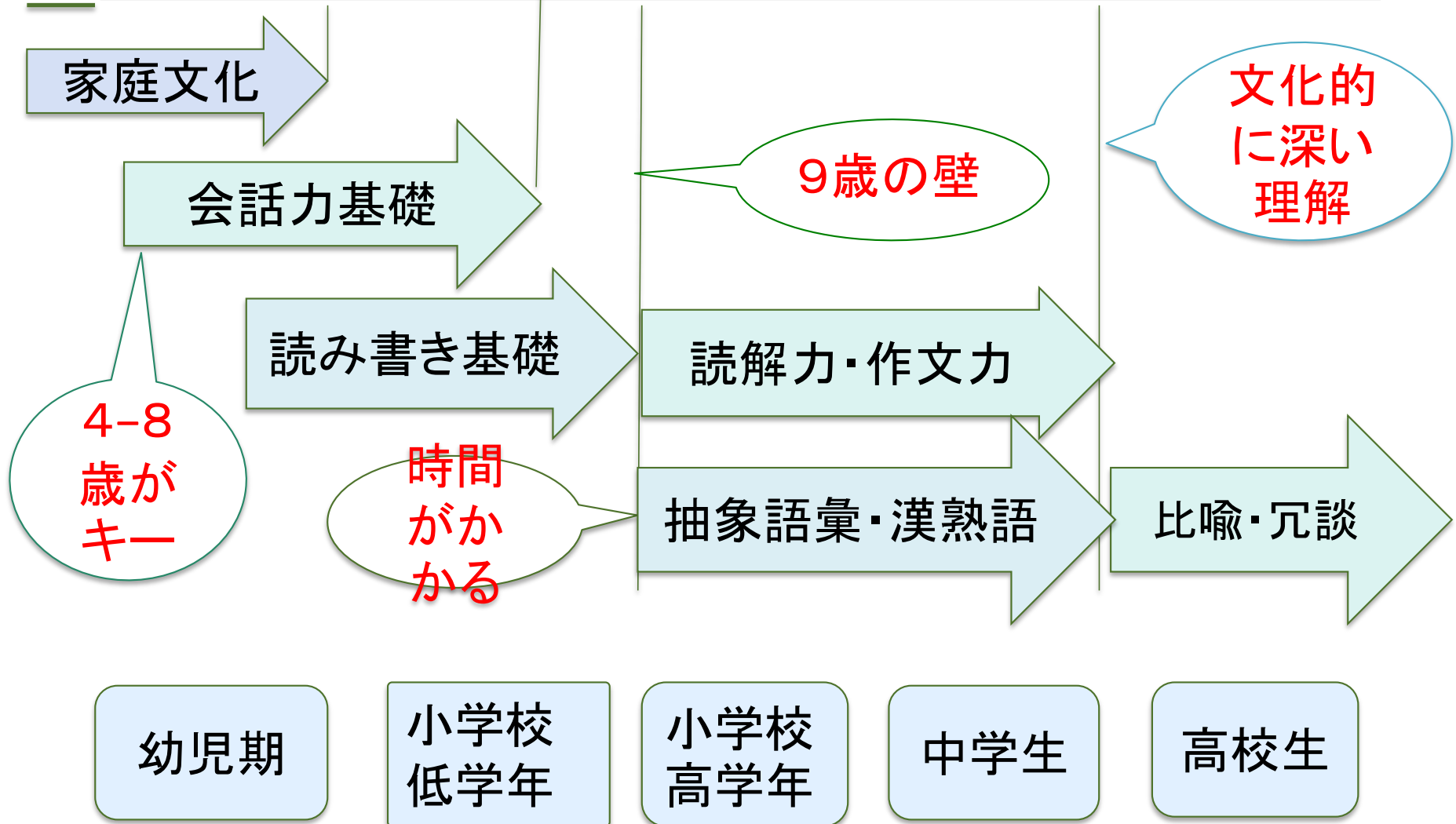
子どもの年齢とコトバの発達(言語形成期)

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14(歳)

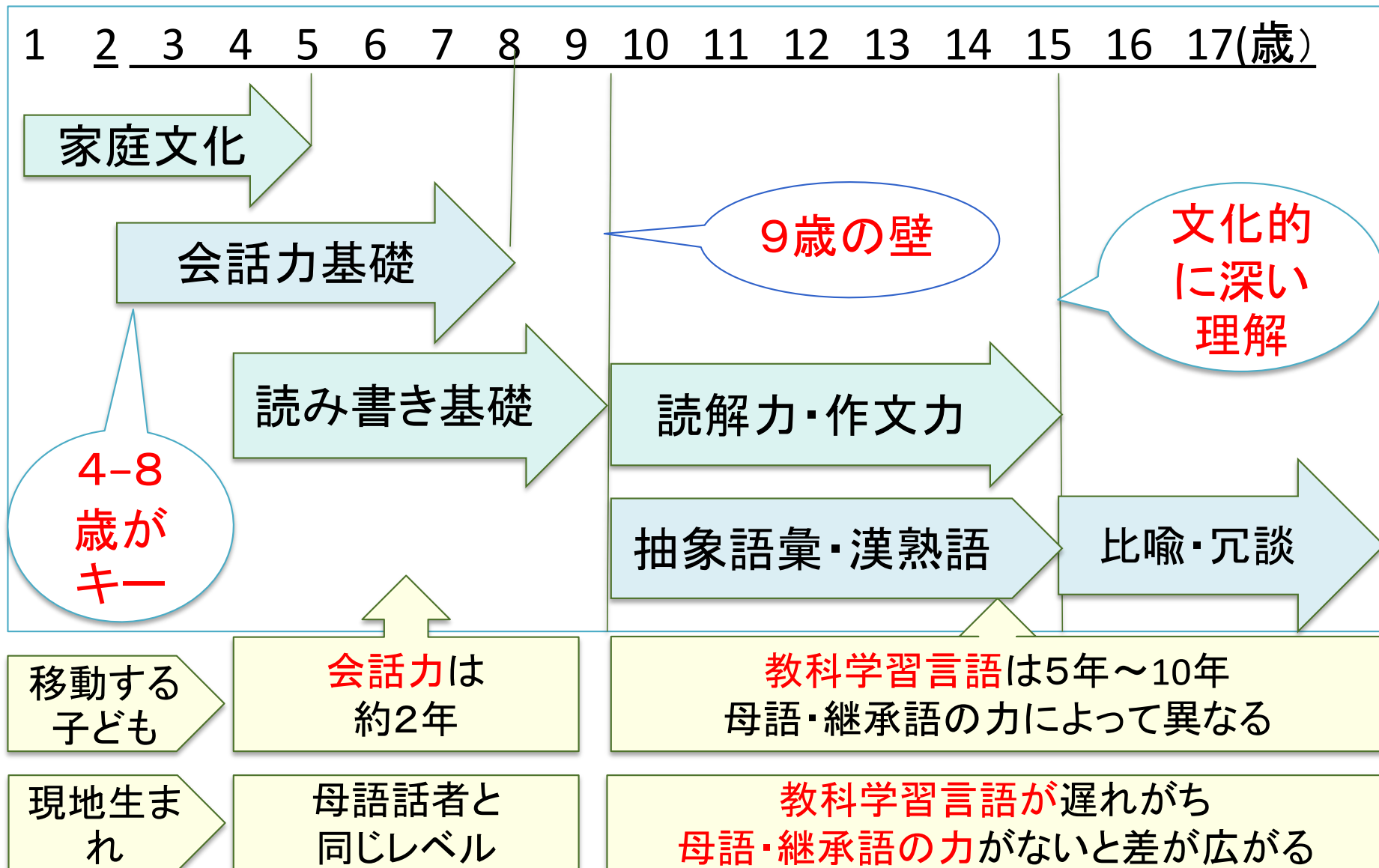


年齢とコトバの発達 (幼児から高校まで)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17(歳)



年齢とコトバの発達 (母語話者が動克的)



追いつくのどのぐらい時間がかかるか コトバの面によって違う

- 対話する力
 - 2年
 - 日本語で話す友達がいるかどうかが鍵
- 文字・漢字、文法、語彙などを正確に使う力
 - スキルによって、必要な時間が違う
 - 例えば、漢字には日本人でも8年はかかる
- 教科の学習に必要な言語能力
 - 母語・継承語が強いと、5年から7年
 - 母語・継承語の基礎が弱いと、5年から10年
 - 中学・高校生で日本に来た子どもは習得が速い

大事な幼児期・小学校低学年

- まず親が自分のコトバを使って「話しかけ、話し合い、読み聞かせ」（教えるのではない！）
- コトバを使い分ける
 - 家の中と外で使い分け（1言語家庭）
 - 使い分けのルール（（2言語家庭—国際結婚家庭）
 - 夫婦の力関係によって変わる
 - 経済力
 - 現地校経験があるかどうか
 - 親類・縁者がいるか
- 良い文字環境を与える（周囲に本があること、（絵）本の読み聞かせ、家で文字を教える）
- いい学習習慣をつける
 - 現地語が分からなくても、隣に座って母語を使いながら支援

兄弟同士は？

Mさんの例

ちなみに継承語とは？

- 社会の主要言語を話す子どもの場合は、
 - 親の母語は、子どもの母語でもある
 - 子どもは、学校でも家でも**母語**を使う

- マイノリティ言語を家で話す子どもの場合は、
 - **親の母語**が、子どもにとっては**継承語**
 - 継承語は**親から受け継ぐコトバ**
 - 子どもには、現地語と継承語の両方が必要
 - 継承語は大事な**親子のコミュニケーション**のツール
 - 現地語は、学校で学習するための大事なツール
 - 会話力だけでなく、継承語の**教科学習言語**も必要
 - グループで学ぶ場合は、**居場所**を作る

	母語	継承語
習得順序	一番初めに覚えた言語	一番初めに覚えた言語
到達度	最もよく理解できる言語	学校言語のプレッシャーでフルに伸びない言語
使用頻度	最も頻繁に使う言語	家庭中心
アイデンティティ (内的)	アイデンティティが持てる言語	アイデンティティが揺れる言語
アイデンティティ (外的)	人に母語話者だと思われる言語	人に母語話者だと思われたくない、人前で使いたくない言語

継承語を教えるときは...

- 言語レベルではなく、知的レベルに合わせる
- 子どもの興味をそそるテーマを選ぶ
- 子どもの体験と結びつける
- 積極的にスキヤフォールディング(支援)をする
- 自信のないコトバなので、自尊感情をきずつけないように注意
- 「2言語で話せる子」「2言語で読める子」というアイデンティティを育てる
- 会話だけでなく、継承語の読み書きも教える

学習言語をどう伸ばすか

- 正式には、教科学習言語能力 (Academic Language Proficiency, ALP) (Cummins, 2000)
 - 国語, 社会, 理科, 算数・数学などの教科で必要になる学習言語
 - 日ごろの会話では、あまり聞くことがない**頻度数の低い語彙**, **複雑な文**, **抽象的な表現**など
 - マイノリティ児童生徒が母語話者レベルに追いつくためには、学習を始めてから**5年**は必要。母語・継承語の学習言語が弱い場合は、**10年**ぐらい。
 - 教科学習に必要な**読解力**を伸ばすためには、**文字や単語や文型**などを覚えるのとは違って、**多読**が必須。

家庭では育ちににくい教科学習言語

カナダ・カルガリーの高校の例 (Roessingh,1999)

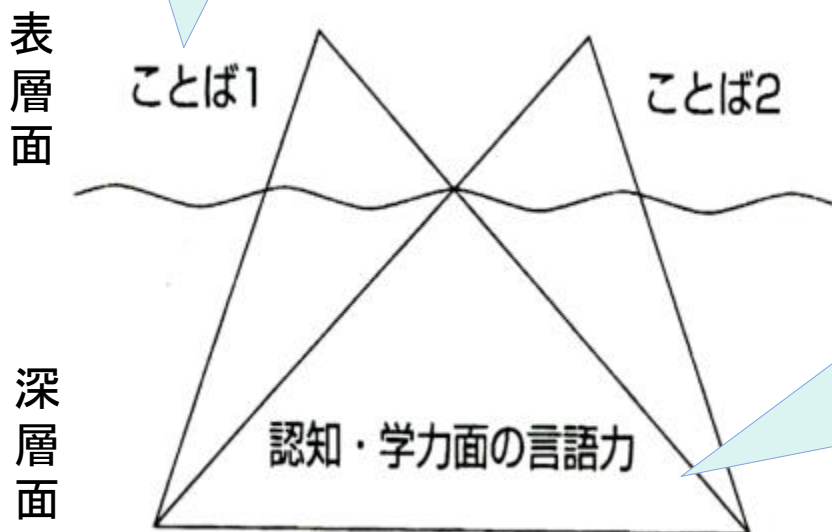
ESLの英語力(高校生)	母語話者の英語力
語彙 5,000~7,000 (Grabe, 1987)	語彙 40,000 (Miller & Gildea,1991)
読む速度 約100語/分	読む速度 約300語/分
読解力レベル GE6/7 (小6/中1)	読解力レベル GE10(高1)以上
文(章)を書くのが困難	文章が書ける
標準的な英語のみ	方言や子どもの言葉、丁寧語など、多様なコトバが使える
文字通りの読み取り	深い読み取りが可能
比喩などが分からない	コトバでユーモアが楽しめる

2言語の関係

CUP説/2言語基底共有説/冰山説

文字・表
記・文法・
単語・漢字
など

- コトバ1で学習したことは、コトバ2でもアクセスできる (transfer, 転移する)
- 双方向の転移



- 教科学習言語能力
- 教科知識, 読解力・作文力
- コミュニケーション・スタイル
- 学習ストラテジー
- 音韻意識

(Cummins, 1984をもとに加筆したもの)

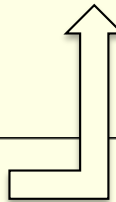
母語の成熟度と外国語習得

- ビゴツキー(1966)

「外国語の習得に成功するかどうかは、ある程度母語の成熟度にかかっている。子どもは、すでに持っている意味体系を新しい言語に転移することができる。その逆も確かで、外国語の力が母語の習得を助ける。子どもは自分のコトバのシステムを可能なシステムの一つと見るようになり、さまざまな現象を、一般的な範疇に照らして見るので、それが言語というものに対する認識や理解につながるのである。」(p. 110)

「補習校モデル」ーカナダの T 校の例

イマージョン教育： 英語80～90% 日本語 10～20%

学年	Mo	Tu	We	Th	Fri	土曜
G9	<p style="text-align: center;">現地校</p> <ul style="list-style-type: none"> • 英語100% または • 英語・フランス語イマージョン (英仏の授業時間数は学年やプログラムによって異なる) • K-G12 					<p style="text-align: center;">補習校</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日本語100% • 4教科+ • 9:00 -15:00 • 幼・小・中・高
G8						
G7						
G6						
G5						
G9						
G3						
G2						
G1						
K						
家庭＋日本語使用のデイケア, 保育グループ 						

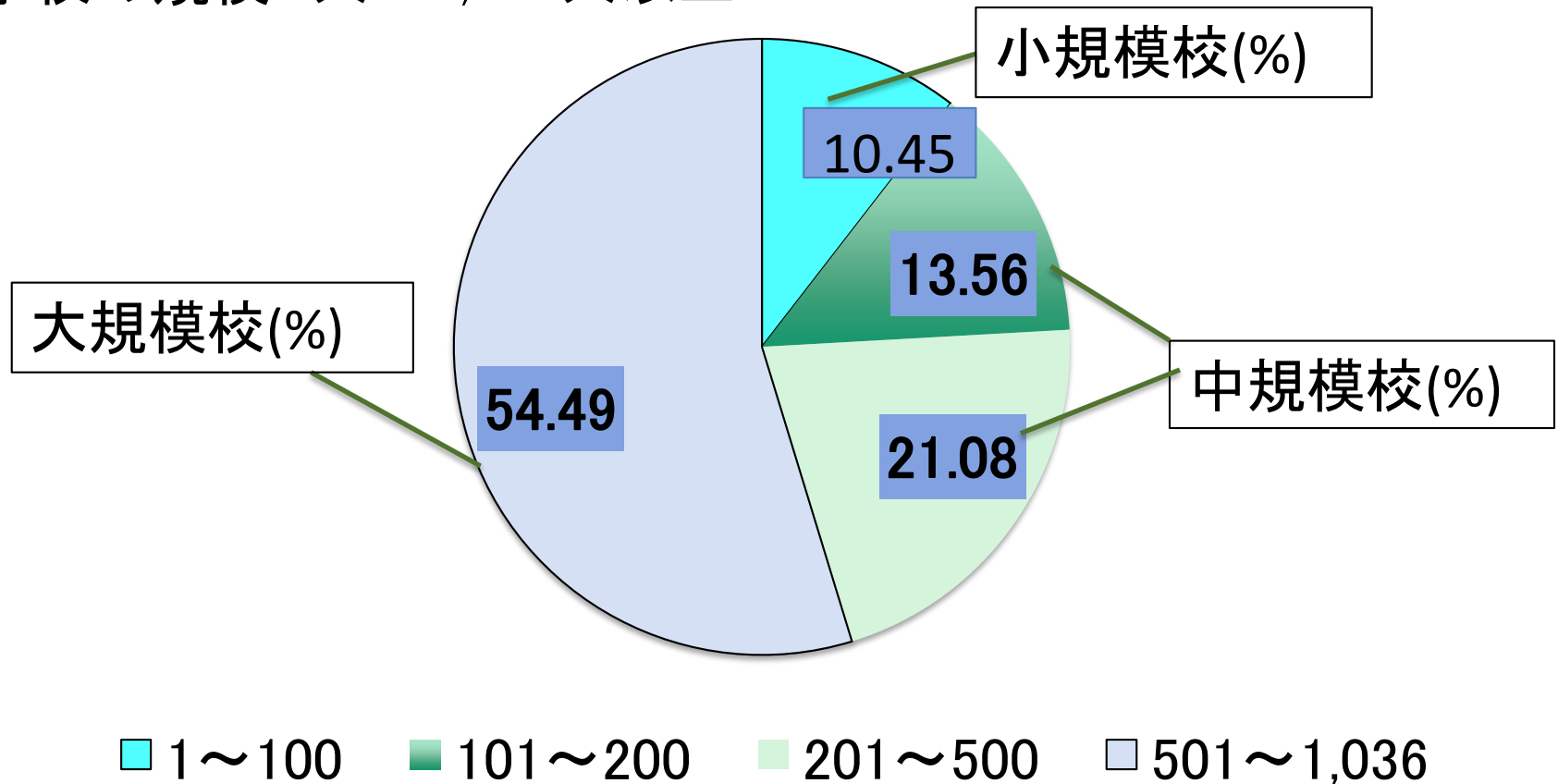
「補習校モデル」の課題

- 社会的地位が異なる2言語の育成であること
 - 英語はマジョリティ言語, 日本語はマイノリティ言語であるため, 英語は伸びやすいが日本語は伸び悩む傾向
 - 日本語に対するアイデンティティが揺れる可能性
- **非連続型**の平行・プログラムであること
 - 1つの学校内の繋がりのあるプログラムではない
 - **話し合いなしの同時発達型** — 例えば2つの文字体系の同時習得で問題が起こらないか
- 多様な背景を持つ子どもの混合集団
 - 滞在目的, 滞在期間, 入国年齢, 家庭言語環境, 日本帰国頻度, 日本学校文化体験等が異なる
 - 従来の現地生まれ・長期・中期・短期滞在型に加えて, 往還型, トランスナショナル型の増加, 国際結婚家庭の増加

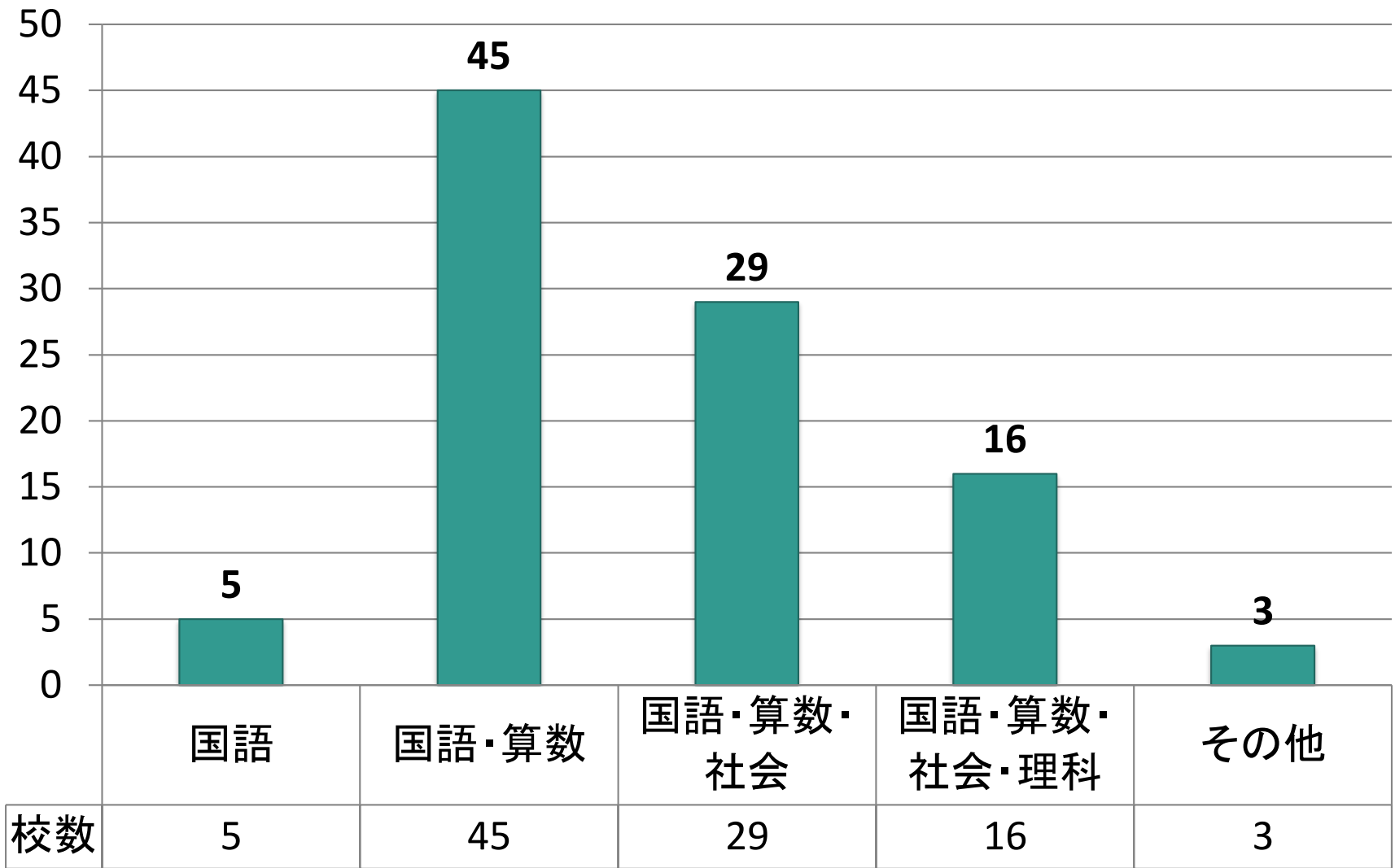
北米の継承日本語補習校

海外子女教育振興財団提供のデータをもとに(2018)

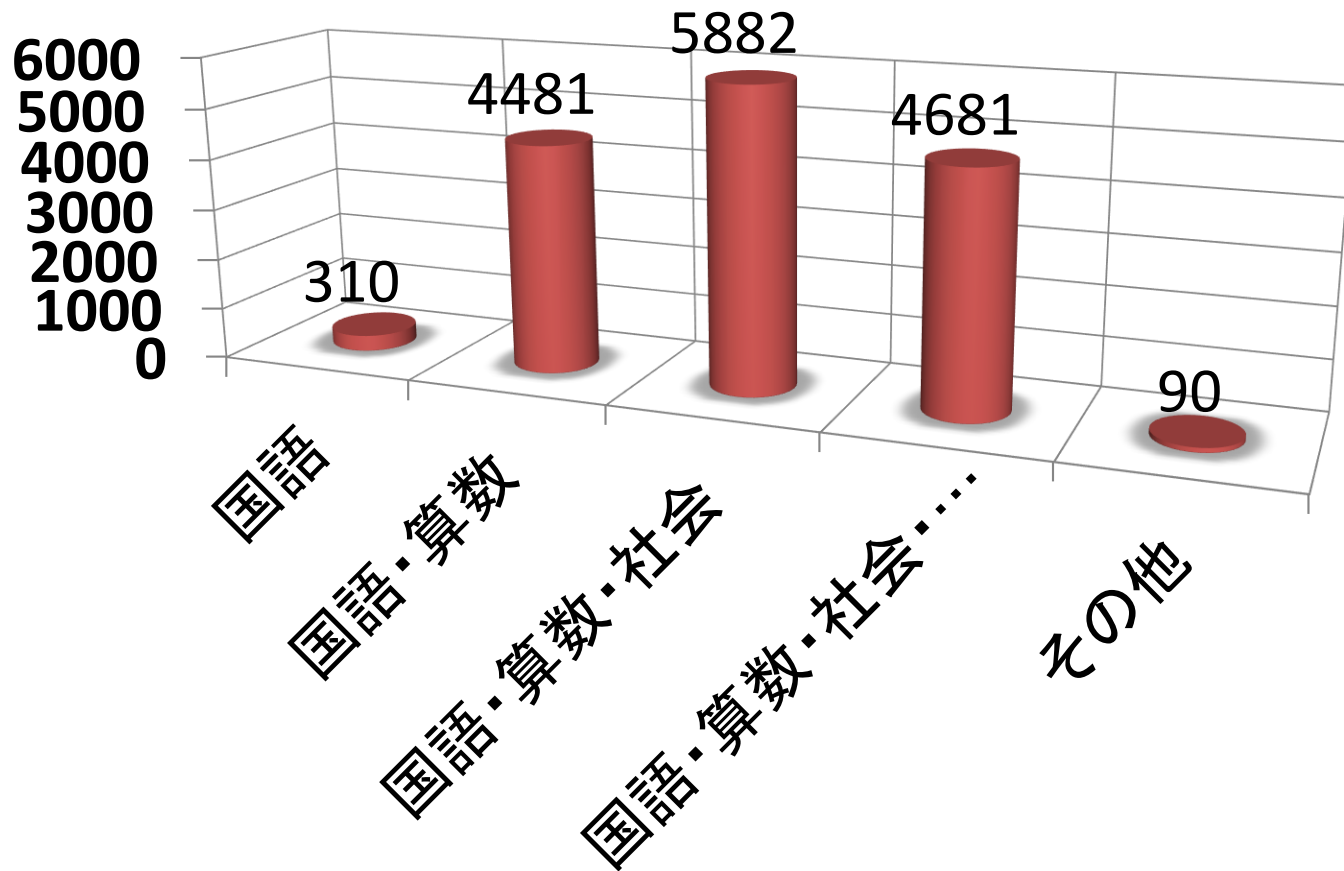
北米に全部で 98 校、児童生徒数19,198人
学校の規模1人～1,000人以上



教科の組み合わせと北米補習校の数



補習校では どのような科目を教えているか



トロント補習校 574名 (幼80・小345・中80・高40)

4教科 6時限9:00-15:00

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
国語	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2
算数・数学	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	*	*
社会			1	1	1	1	1	1	1			
理科			1	1	1	1	1	1	1			
生活	1	1										

- 数学・小論文が選択
- 高等部は別立てで、入試あり。高等部校長もいる。
- 90分授業

調査例 「補習校十複数現地校」

中島(2014) 中島・佐野(2015)

- 補習校小・中全校生徒 336名
- 授業時間内にまず日本語作文、翌週英語作文
- 日英同題作文 「カナダ」
- 質的評価7項目(4段階評価) 量的分析6項目
- 主成分分析(PCA)による PCAスコアを比較対照に使用

結果

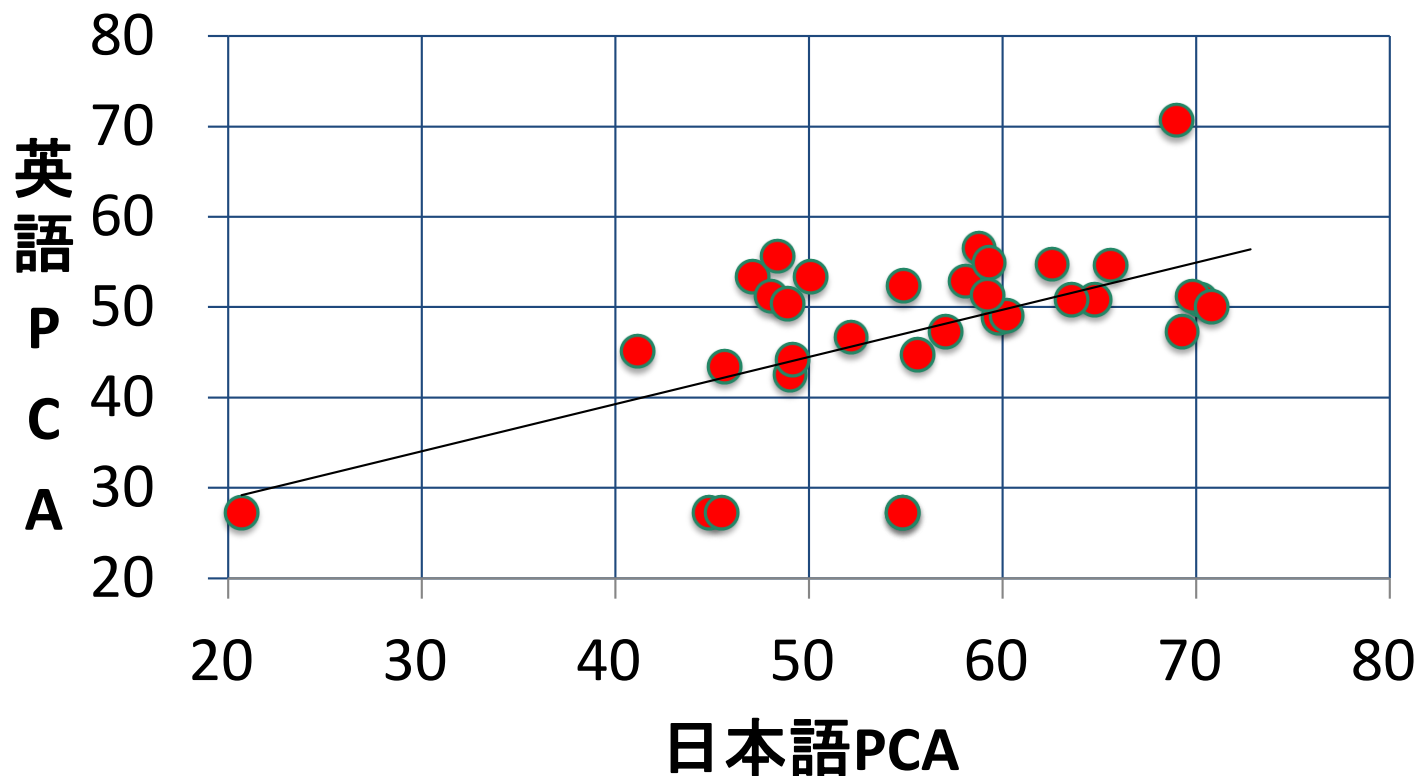
- 1) 「作文の長さ」「語彙の多様性」「構文の複雑さ」で**中度の相関**, 「表記上の誤用」で**弱度の相関**
- 2) 時間配分・書字/表記・段落構成・文構成などの**作文ストラテジーの共有**
- 3) G6-9の**短期滞在**(30名)の日・英作文力にかなり**高度の相関**
- 4) 保護者のために書いた「**講評**」(2言語発達状況)が好評

G6-G9の短期グループ (N=30)

英語力と日本語力との関係

有意相関 $r = .650, p < .001$

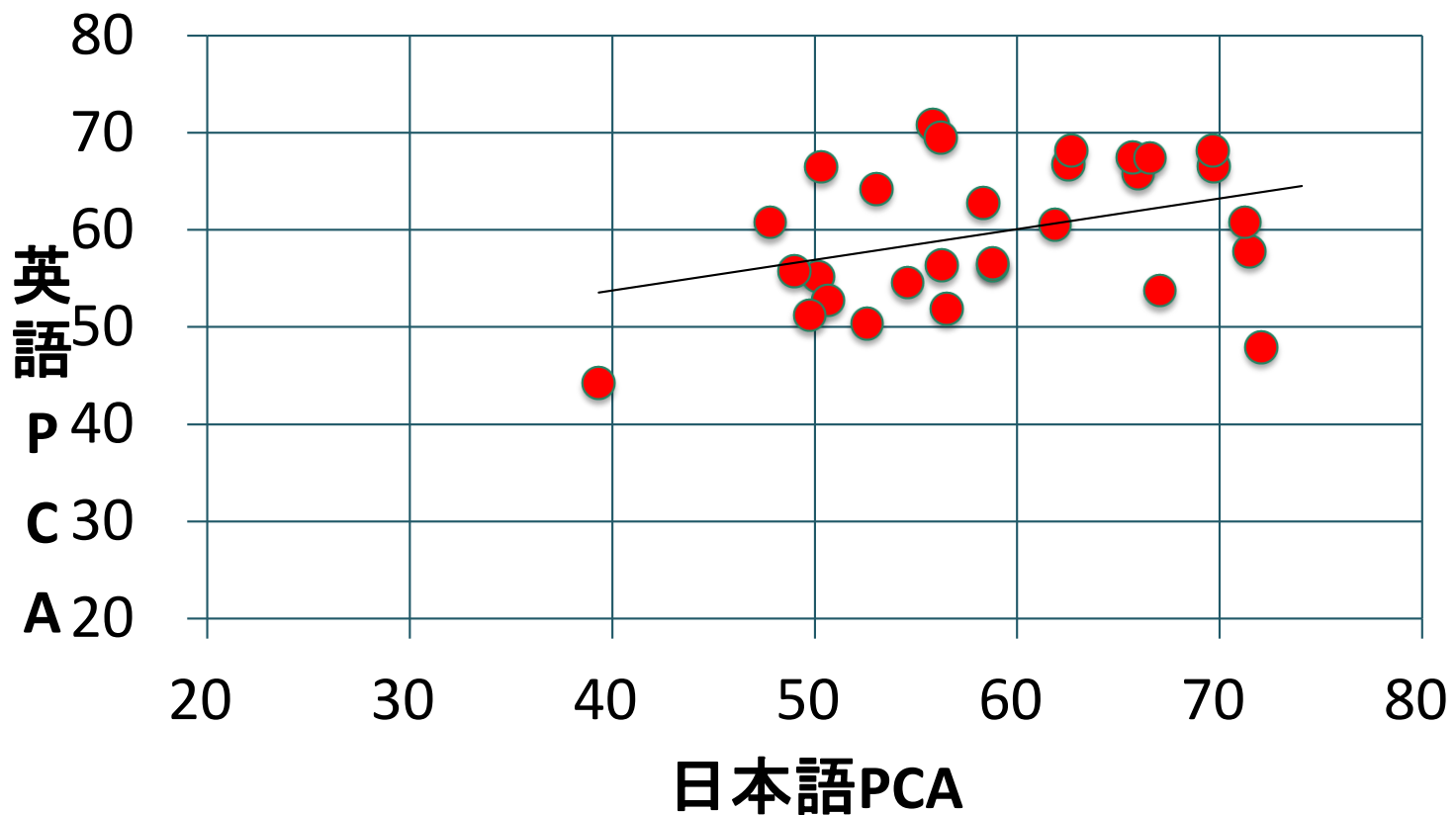
日本語力がある子は英語習得が早い



G6-G9の中期グループ (n=28)

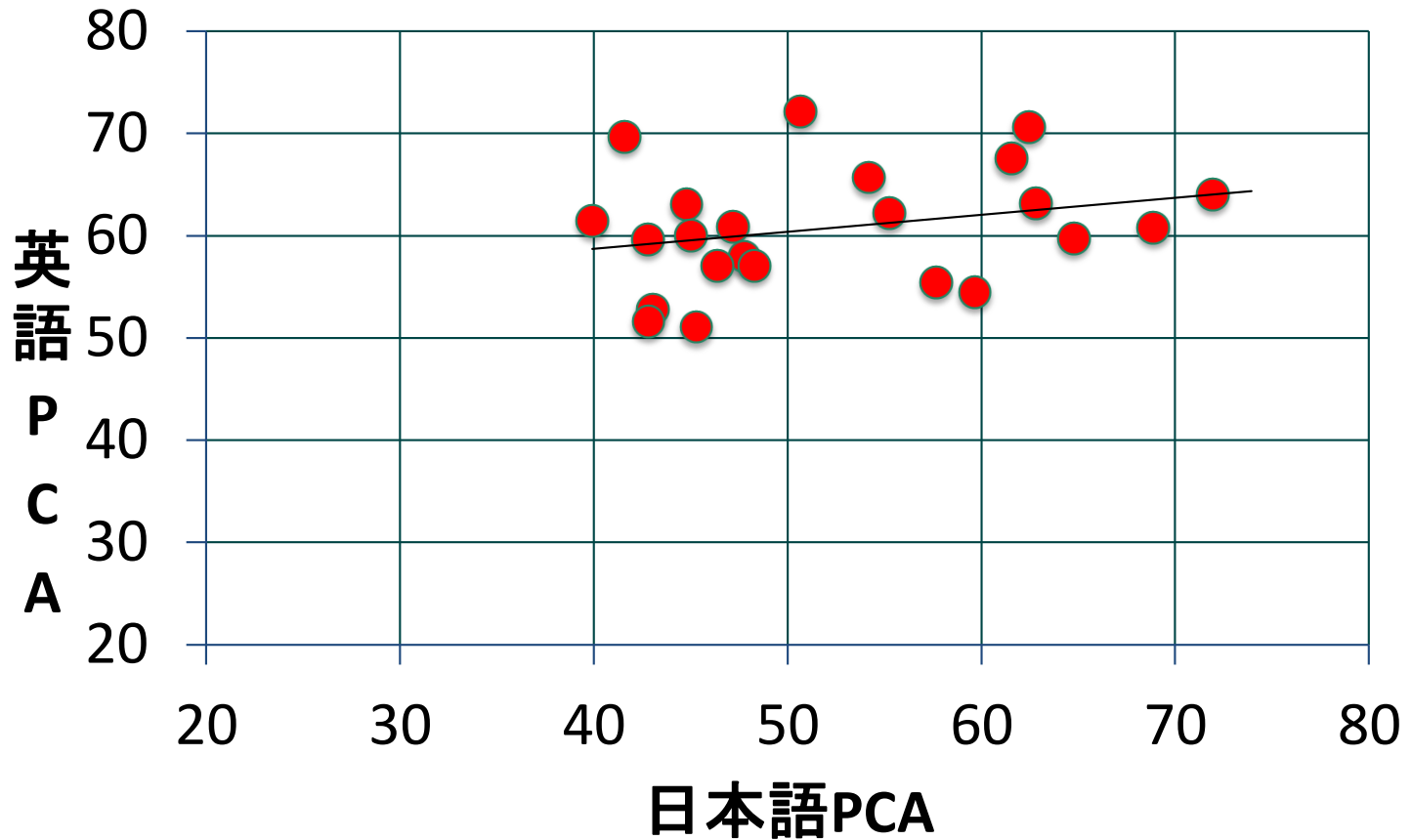
英語力と日本語力との関係

ほぼ全員英語作文力も日本語作文力も高い



長期グループ (n=22)

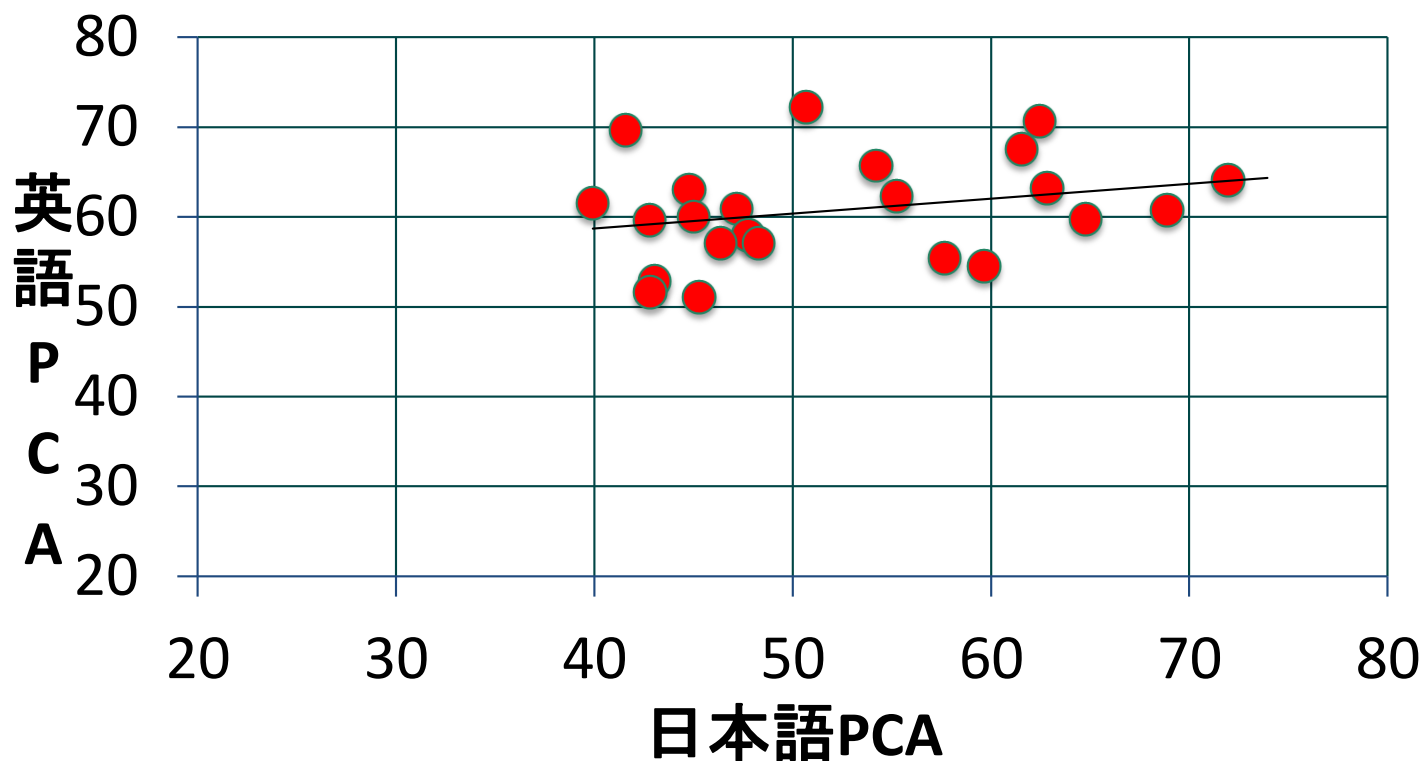
英語力と日本語力との関係



G6-G9の長期グループ (n=22)

英語力と日本語力との関係

英語作文力は高いが日本語作文力はばらつきがある



海外の児童生徒の分類

1	短期	1・2年 会話中心、基礎的な読み書き
2	中期	2年から10年ぐらい 母語も継続して伸びれば、現地語の習得、特に 高度な教科学習言語が伸びる
3	長期	A: 現地生まれ B: 5歳ぐらいまでに入国 AもBも、親の努力と地域ので海外でも日本語 は育つ、ALPも伸びるが、化石化した誤用が多い
4	往還型・TN 型	家庭環境と親の姿勢と本人の性格によって、日 本語と日本人としてのアイデンティティが育つ
5	不就学	期間が短くてもダメージは大きい

帰国した子どもの2つのコトバをどう伸ばすか

1	短期	年齢相応の海外で触れた言語を育てながら、日本語をゆっくり時間をかけて伸ばす
2	中期	日本語・外国語とも年齢相応の教科学習言語を伸ばす。学習仲間と中級レベルの言語指導が望ましい
3	長期	両言語とも年齢相応のレベルより低い場合は、目標を立てて、時間をかけてそれぞれの言語を伸ばす
4	往還型・TN型	ケースによって異なる
5	不就学	ケースによって異なる

調査例(パイロット)「補習校高校生の作文力」

- 補習校高等部全校生徒 26名(長期7、中期6、短期7、往還6)
- 教育講演会で講演を聞いた後に授業時間内に日本語で書いた**意見文**(40分 800字以内)
- テーマ「人が作り出した化学物質のリスク(環境リスク)と放射性廃棄物処分」(マックマスター大学教授による日本語講演)
- 産出量(文字数), 使用漢字数, 平均文節数, リーダビリティ値, 誤用 (日本語リーダビリティVer.0.1を使用)

グループ	産出量	漢字数	平均文節数	リーダビリティ	誤用
長期	700.9	212.4	8.47	9.60	11.71
中期	793.0	235.0	9.21	9.18	18.25
短期	607.6	185.9	8.73	8.66	3.86
往還	662.8	197.5	9.33	9.09	3.00

「バイリンガル子育て」を振り返る

『月刊ふれーざー』の実例からー

● 国際結婚ファミリー

- 3カ国語(英・仏・日)をカナダで育てる(A)
- 主導権をカナダ人父親が握る中で、娘の日本語を死守(B)

● 両親日本人ファミリー

- 日本1.5年、海外15年、4か国, 編入・退出13回, それでも「日本人の子」は育つ(C)

● 子ども自身の声(音声データ)

- 高部フレンチ・アリサさん(現在大学生、補習校卒業生)
- 勝田毅先生(現在医師、補習校卒業生、3人の補習校生の父)

Cummins, J. (1996/2001). *Negotiating Identities: Education for Empowerment in a Diverse Society*. Los Angeles: USA, California Association for Bilingual Education.

Cummins, J. (1984). *Bilingualism and Special Education: Issues in Assessment and Pedagogy*. Clevedon, UK: Multilingual Matters.

Roessingh, H. (1999). Adjunct Support for High School ESL Learners in Mainstream English Classes: Ensuring Success. *TESL Canada Journal*, Vol. 17, No.1 72-86.

中島和子 (2014). 「海外で育つバイリンガル作文カーカナダ・トロント補習授業校の実態調査を踏まえて」『月刊海外子女教育』4月号 4-15.

中島和子 & 佐野愛子 (2016). 「多言語環境に育つ年少者のバイリンガル作文力の分析—プレライティングと文章の構成を中心に—」『日本語教育』164号 17-32.

中島和子 (2016). 「バイリンガル教育の方法—12歳までに親と教師ができること(完全改定版)」アルク